

良馬は毛にあらず

士たるはその志にあり

びとう
尾藤 二洲 (にしゅう)

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

人が尊敬を受けるのは
その外見ではなく
人格・人柄という
心の持ち方(志)によって
決まるのである

『静寄軒集』

尾藤 二洲

江戸後期の儒学者。別号は約山・
静寄軒。伊予国川之江の出身。幼少
時に足を悪くするが、学問で身を立て
てることをこころざし、大坂に出て
学問に励むとともに私塾を開き朱
子学の普及に努め、幕府の学問所・
昌平黌の教授を約二十年間務めた。
柴野栗山・古賀精里とともに寛政
の三博士と呼ばれる。

神道知識への誘ひ「お礼参り(報賽)」

神社に安産祈願や合格祈願などのお
願い事をして神様のお導きによって
願いが成就した時に感謝の気持ち
を表すことが「お礼参り」です。昔の人々
はお礼参りの習慣を大切にしており
ました。
古来より春の祈年祭と秋の新嘗祭と
いうお祭りは「豊作の祈り」と「実り
への感謝」が対となる神事であるよ
うに祈りと感謝は一体でした。
困った時にだけ神頼みをするのでは
なく、感謝のお礼参りをする習慣は
大切にしていきたいものです。

